

平成30年度全国学力・学習状況調査
調査結果報告書

平成30年10月

岩見沢市教育委員会
岩見沢市立教育研究所

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、市内における児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、その取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査の対象

原則として、小学校第6学年と中学校第3学年の全児童生徒を対象とする。

3 調査の内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

○主として「知識」に関する問題（A）

○主として「活用」に関する問題（B）

*理科は（A）と（B）を一体的に出題

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童生徒に対する調査）

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等

4 調査の実施日

平成30年4月17日（火）

5 調査をした学校数・児童生徒数

岩見沢市（公立）

	学校総数（校）	参加学校数（校）	児童生徒数（人）
小学校	15	14	604
中学校	10	10	623
合計	25	24	1,227

〔参考〕北海道（公立）

	学校総数（校）	参加学校数（校）	児童生徒数（人）
小学校	1,016	1,012	39,617
中学校	590	589	39,683
合計	1,606	1,601	79,300

〔参考〕全国（公立）

	学校総数（校）	参加学校数（校）	児童生徒数（人）
小学校	19,433	19,386	1,030,031
中学校	9,630	9,597	967,196
合計	29,063	28,983	1,997,227

【調査結果の解釈等に関する留意事項】

- 本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。
- 岩見沢市の各教科の平均正答率については、国から提供された整数値で示している。

Ⅱ 教科調査結果の概要

1 岩見沢市・北海道・全国の平均正答率

《小学校》
平均正答率は、全ての科目で全国平均とほぼ同様かやや上回っている。

《中学校》
平均正答率は、全ての科目で全国平均とほぼ同様かやや上回っている。

《小学校》 (％)

年度	岩・道・国	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理 科
30	岩見沢市	73	55	66	52	60
	北海道(公立)	70	53	62	49	59
	全 国(公立)	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3

《中学校》 (％)

年度	岩・道・国	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理 科
30	岩見沢市	77	63	66	47	68
	北海道(公立)	77	61	65	46	67
	全 国(公立)	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1

* 文部科学省の公表に則り、全国以外は整数値で表示。

2 全国の平均正答率を100とした場合の岩見沢市・北海道の数値

《小学校》 (％)

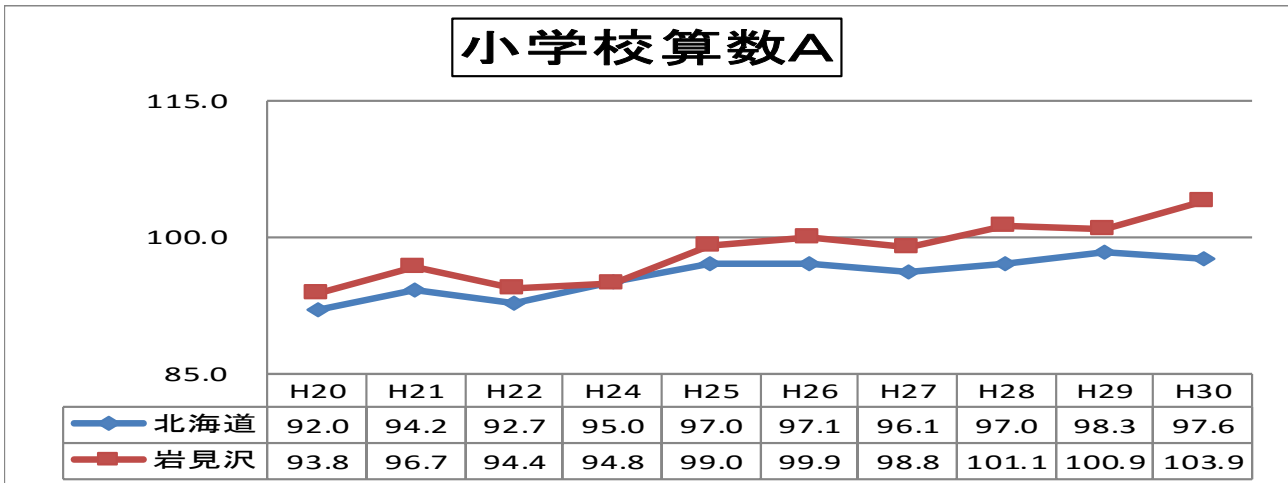
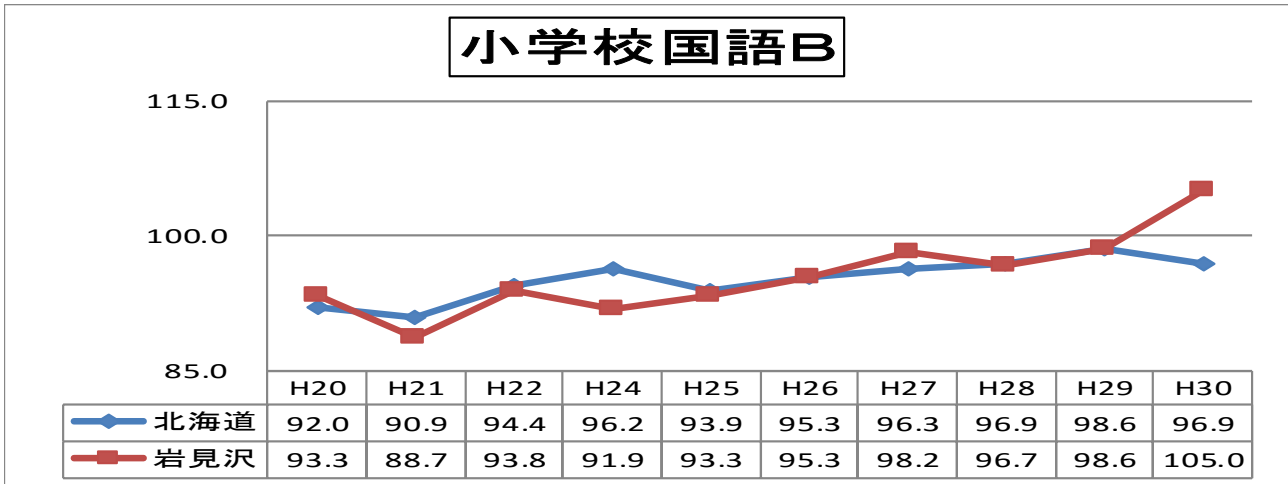
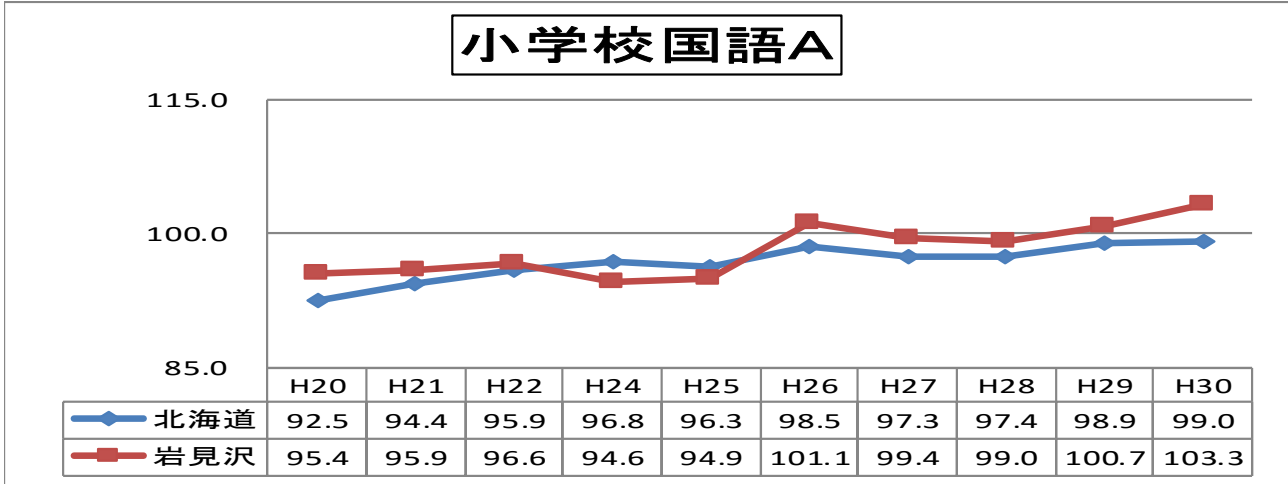
年度	岩・道・国	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理 科
30	岩見沢市	103	101	103	102	100
	北海道(公立)	99	97	98	95	98
	全 国(公立)	100	100	100	100	100

《中学校》 (％)

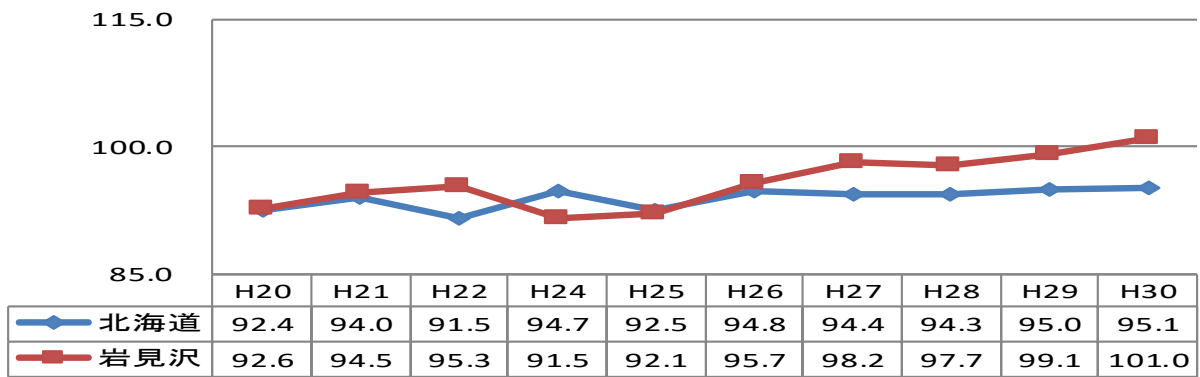
年度	岩・道・国	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理 科
30	岩見沢市	101	103	100	100	103
	北海道(公立)	101	100	98	98	101
	全 国(公立)	100	100	100	100	100

3 全国平均を100とした場合の全道・岩見沢の平均正答率の推移

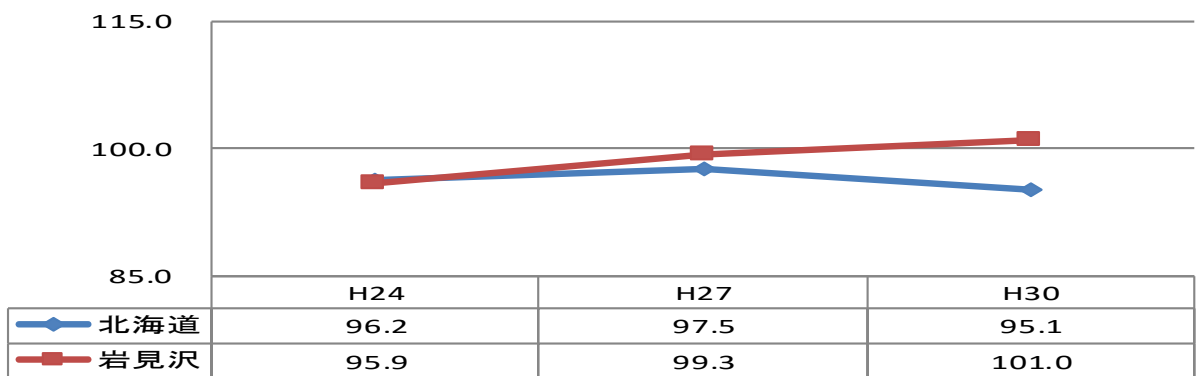
経年変化を小・中学校別で見ると、小学校は国語・算数・理科ともに上昇傾向で、全道平均を上回る形で推移している。特に、算数 A は、この3年間では全国平均を上回っている。中学校においては、国語・数学・理科ともに全国平均並みに推移している。特に、数学 B は過去には全国平均を上下していたが、この3年間では全国平均を上回る傾向で推移している。



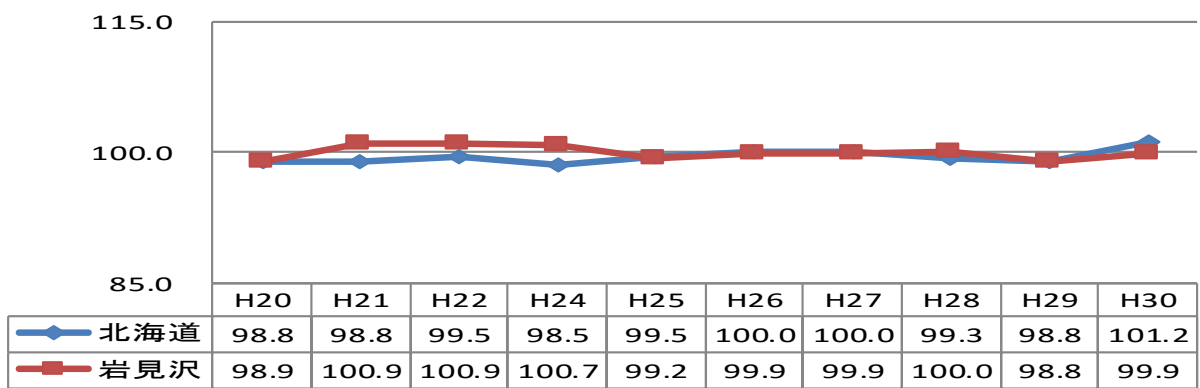
小学校算数B



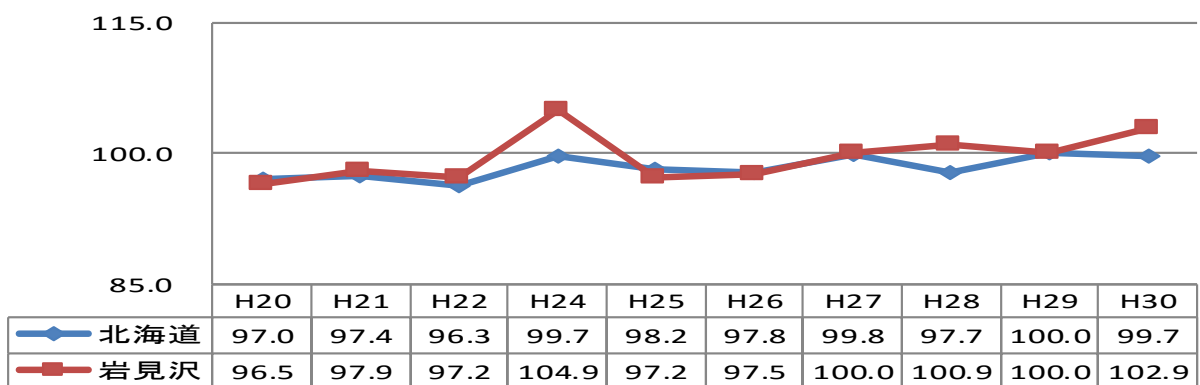
小学校理科



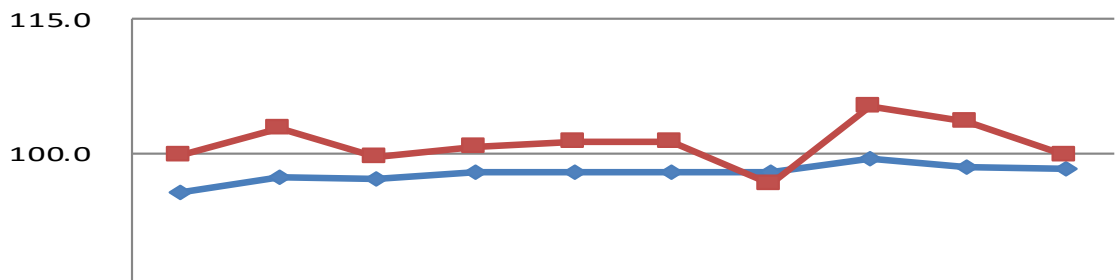
中学校国語A



中学校国語B

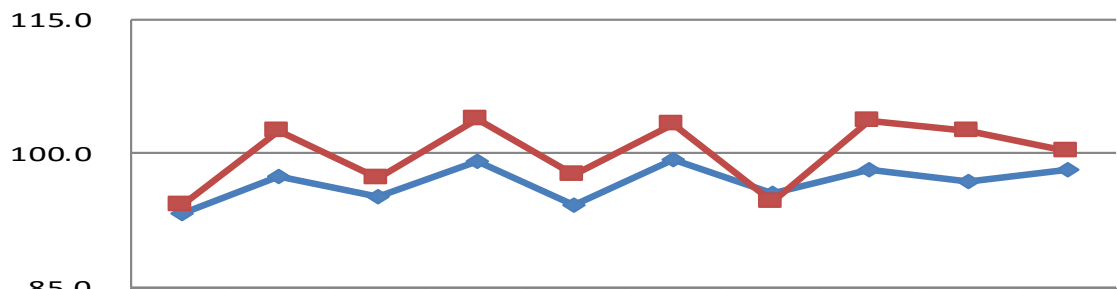


中学校数学A



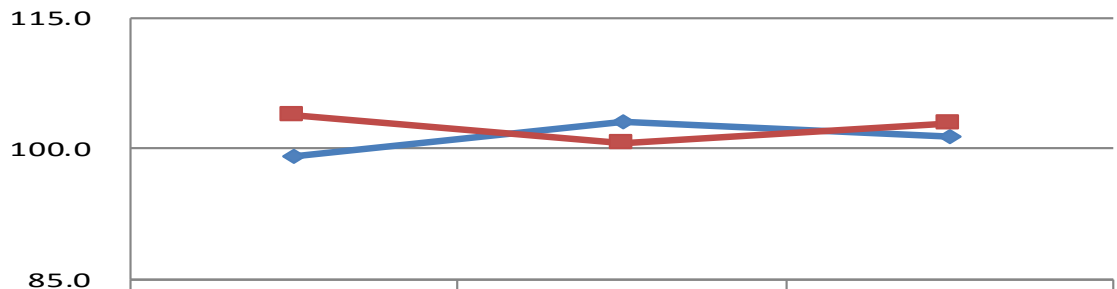
	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
北海道	95.6	97.4	97.1	97.9	97.8	97.9	97.8	99.4	98.5	98.3
岩見沢	99.7	102.7	99.5	100.8	101.3	101.3	96.6	105.3	103.6	99.8

中学校数学B



	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
北海道	93.3	97.4	95.2	99.0	94.2	99.3	95.4	98.2	96.9	98.1
岩見沢	94.1	102.5	97.2	103.7	97.6	103.3	94.5	103.6	102.5	100.2

中学校理科



	H24	H27	H30
北海道	99.0	103.0	101.4
岩見沢	103.7	100.6	102.9

4 学習指導要領の領域等における平均正答率の状況

《小学校》

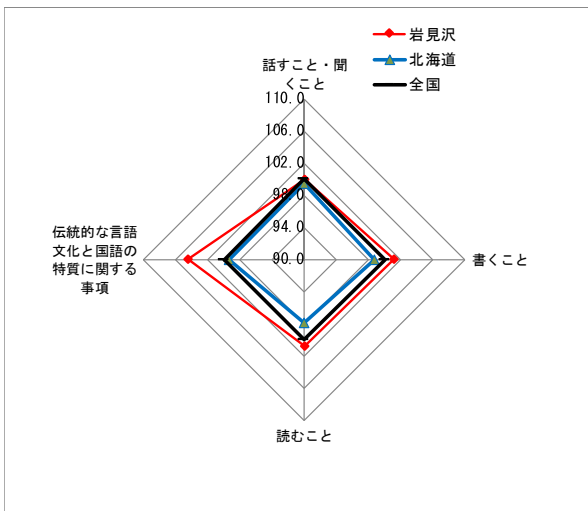
- 国語 A・算数 A・算数 B は、4 領域において全国と同様か、全国を上回っている。
- 国語 B は、「読むこと」は全国に比べて3.2ポイント上回り、「話すこと・聞くこと」は全国と比べて1.7ポイント下回っている。
- 理科は、A 区分の「物質」、「エネルギー」、B 区分の「生命」は全国と同様で、B 区分の「地球」については全国に比べて1.9ポイント下回っている。

《中学校》

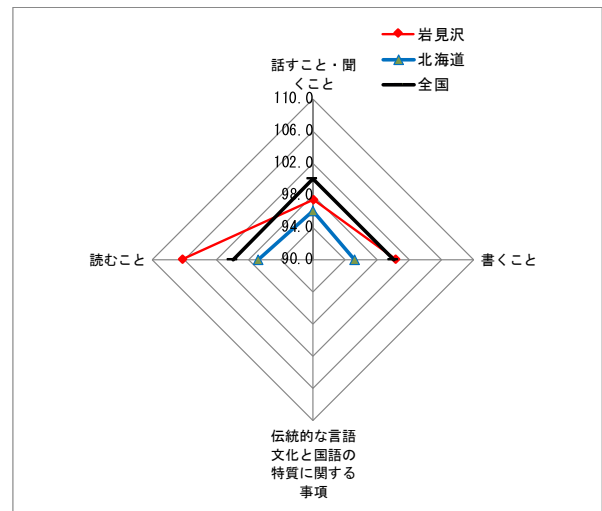
- 国語 A・数学 B は、4 領域において全国と同様か全国を上回っている。
- 国語 B は、「話すこと・聞くこと」は全国に比べて4.9ポイント上回り、他領域については全国に比べて下回っている。
- 数学 A は、「関数」については全国を上回り、他領域は全国を下回っている。
- 理科は、第1分野、第2分野ともに全国を上回っている。

* 全国平均正答率を100としたときの北海道・岩見沢市の平均正答率の割合

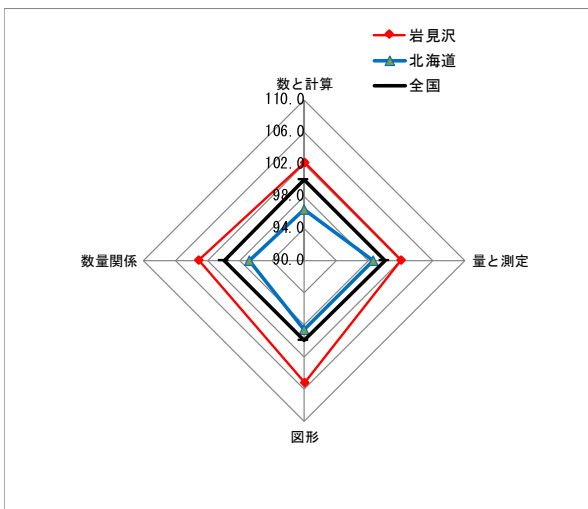
小学校国語 A



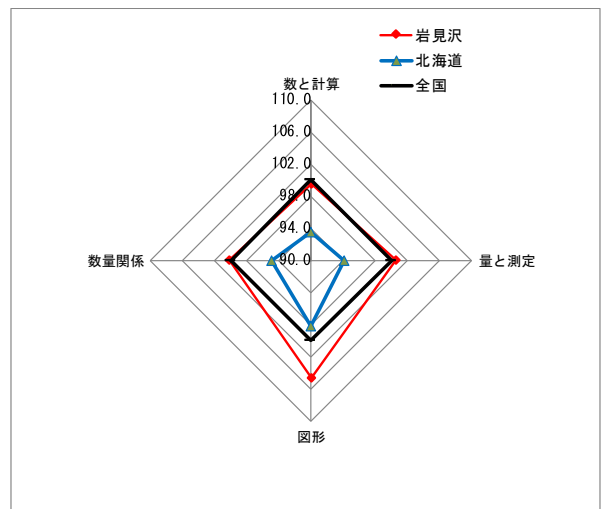
小学校国語 B



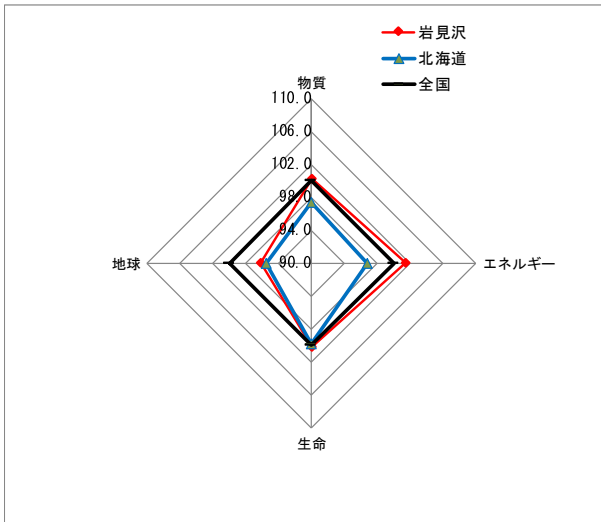
小学校算数 A



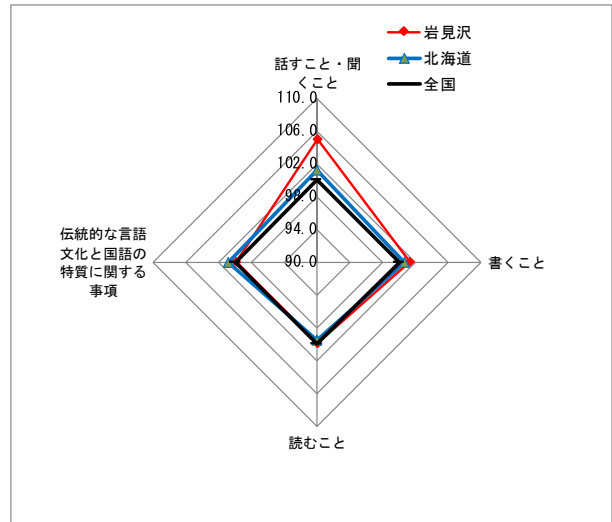
小学校算数 B



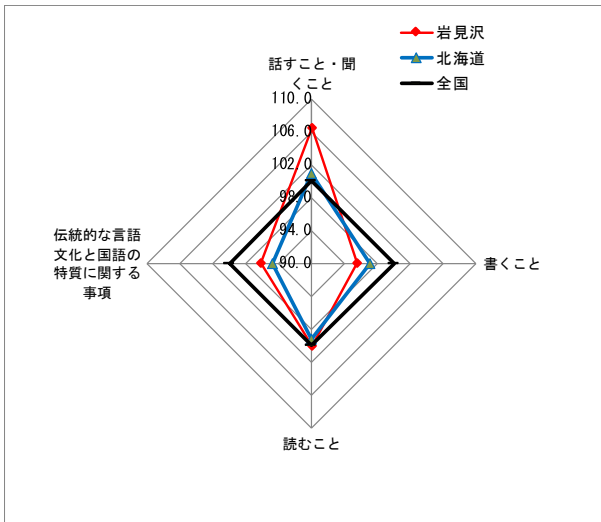
小学校理科



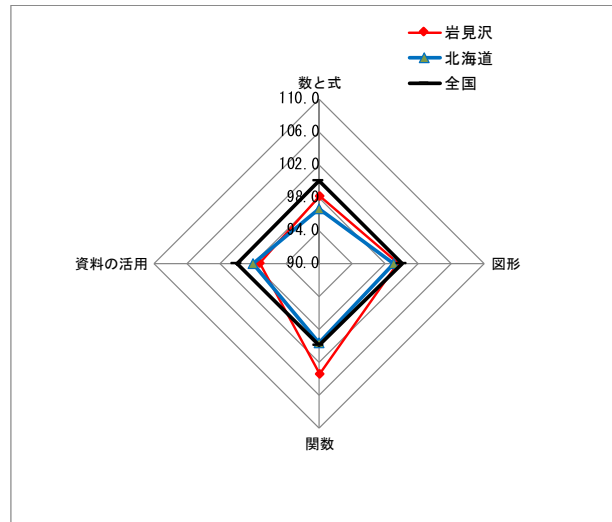
中学校国語 A



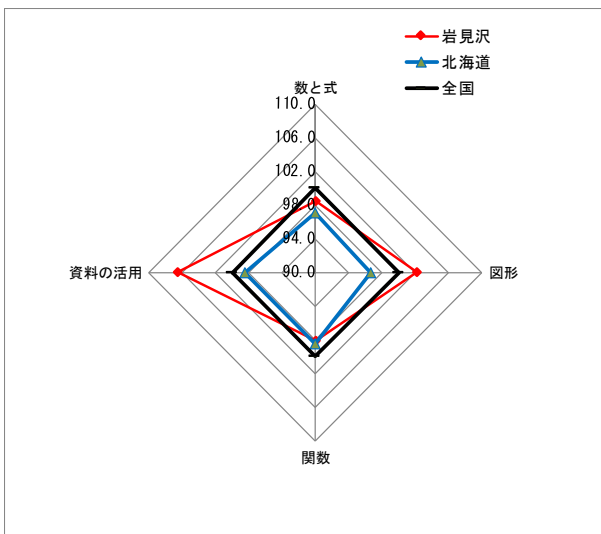
中学校国語 B



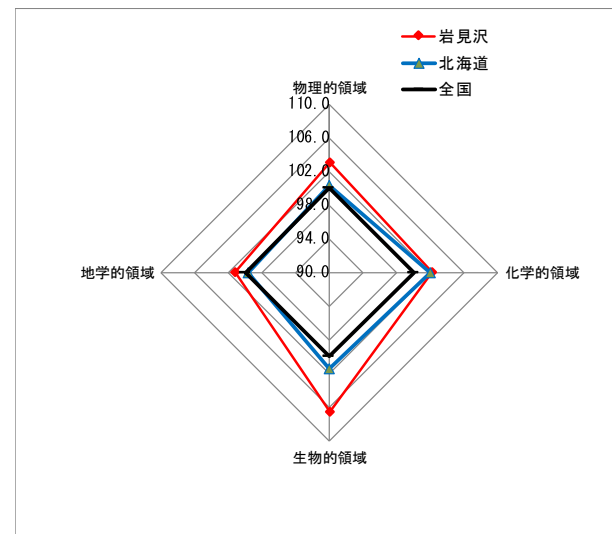
中学校数学 A



中学校数学 B



中学校理科

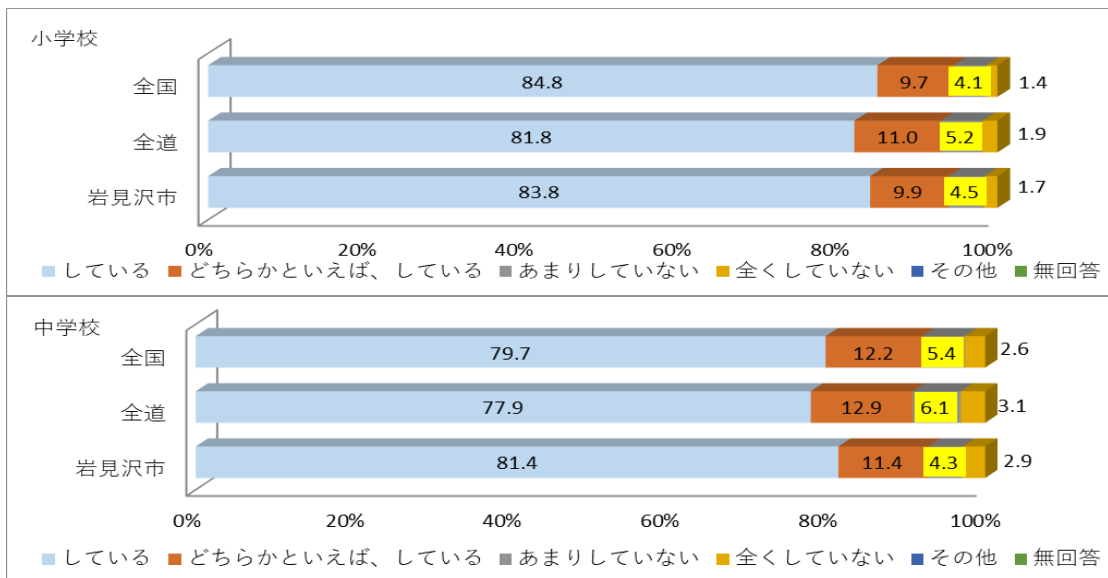


Ⅲ 質問紙調査結果の概要

《児童生徒質問紙》＊グラフの上段は「小学校」、下段は「中学校」を表す。

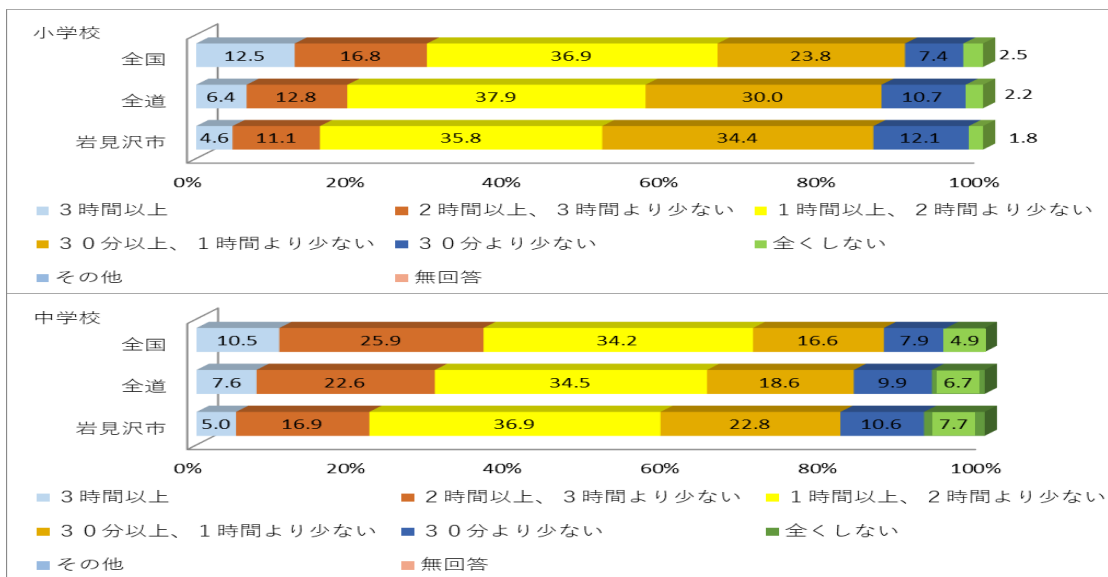
1 朝食を毎日食べていますか。

肯定的な回答は全国と比べて、小学校は0.8ポイント下回り、中学校は0.9ポイント上回っている。



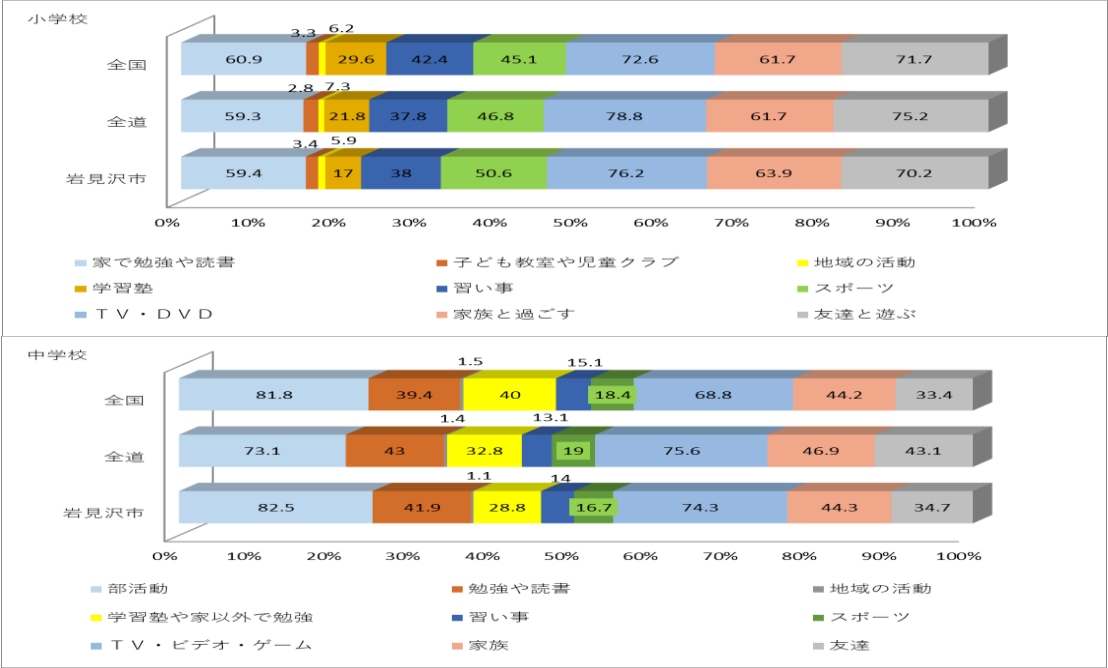
2 学校の授業時間以外に、普段（月～金）1日当たりどれぐらいの時間、勉強しますか。

1時間以上勉強しているとの回答は全国と比べて、小学校は14.5ポイント、中学校は11.8ポイント下回っている。



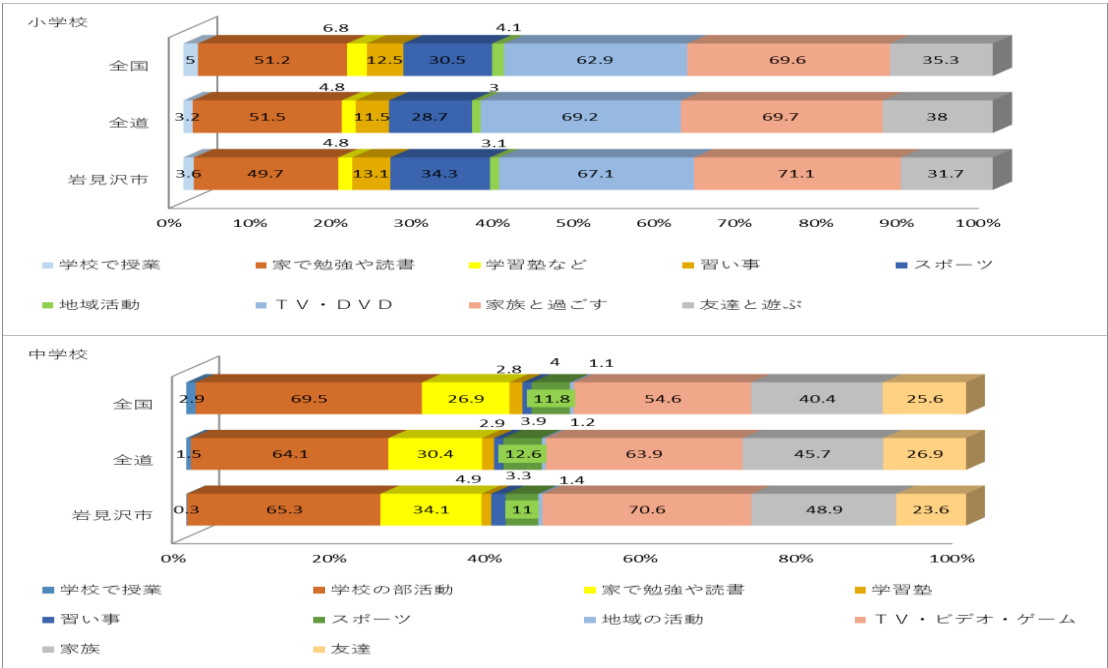
3 放課後に何をしておすることが多いですか。

全国の回答と比べて、小学校は「学習塾」「習い事」が低く、「スポーツ」「テレビ・DVD」が高い。中学校は「学習塾や家以外の勉強」が低く、「TV・ビデオ・ゲーム」が高い。



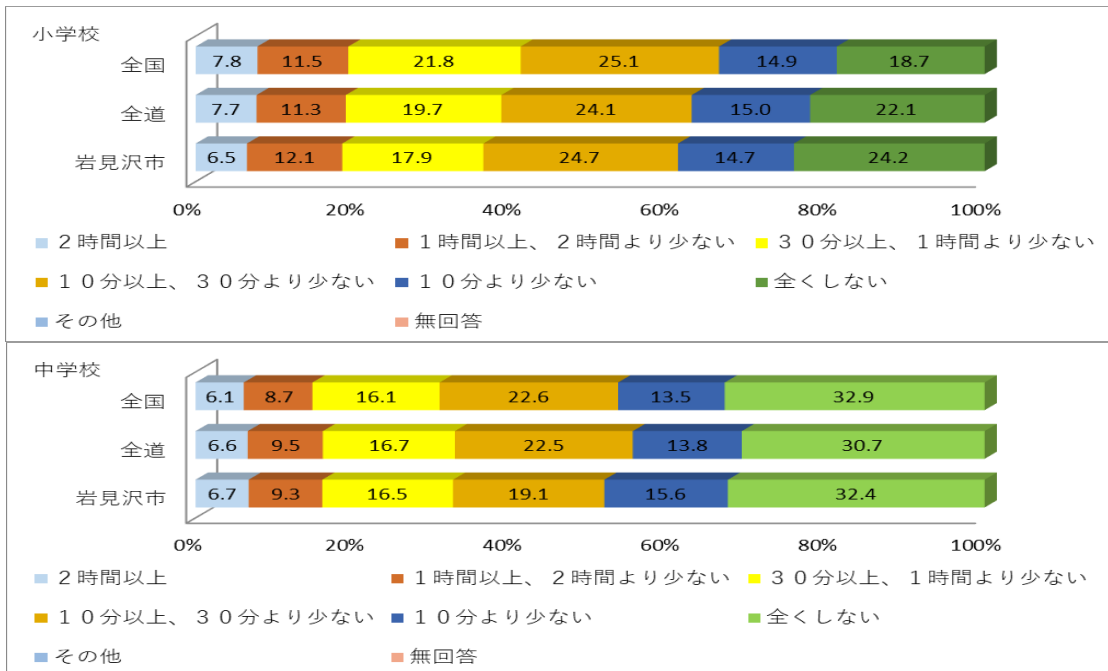
4 週末に何をしておすることが多いですか。

全国の回答と比べて、小学校は「友達と遊ぶ」が低く、「スポーツ」「テレビ・DVD」が高い。中学校は「部活動」が低く、「家で勉強や読書」「TV・ビデオ・ゲーム」「家族で過ごす」が高い。



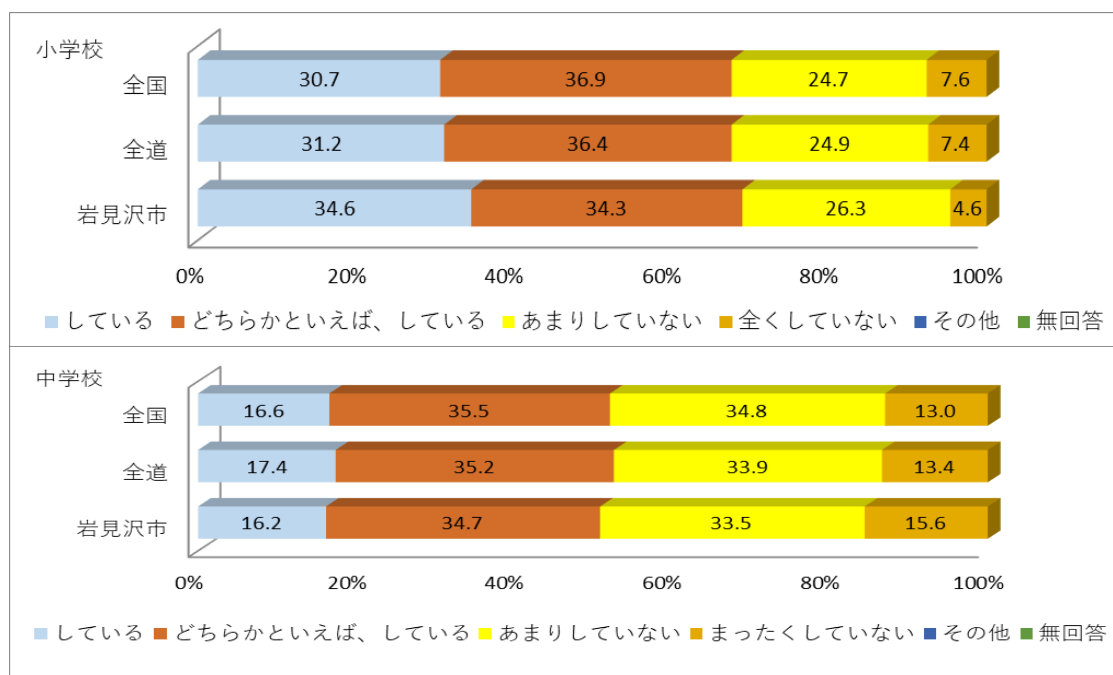
5 学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれぐらいの時間、読書しますか。

30分以上読書しているとの回答は全国と比べて、小学校は4.6ポイント下回り、中学校は1.6ポイント上回っている。



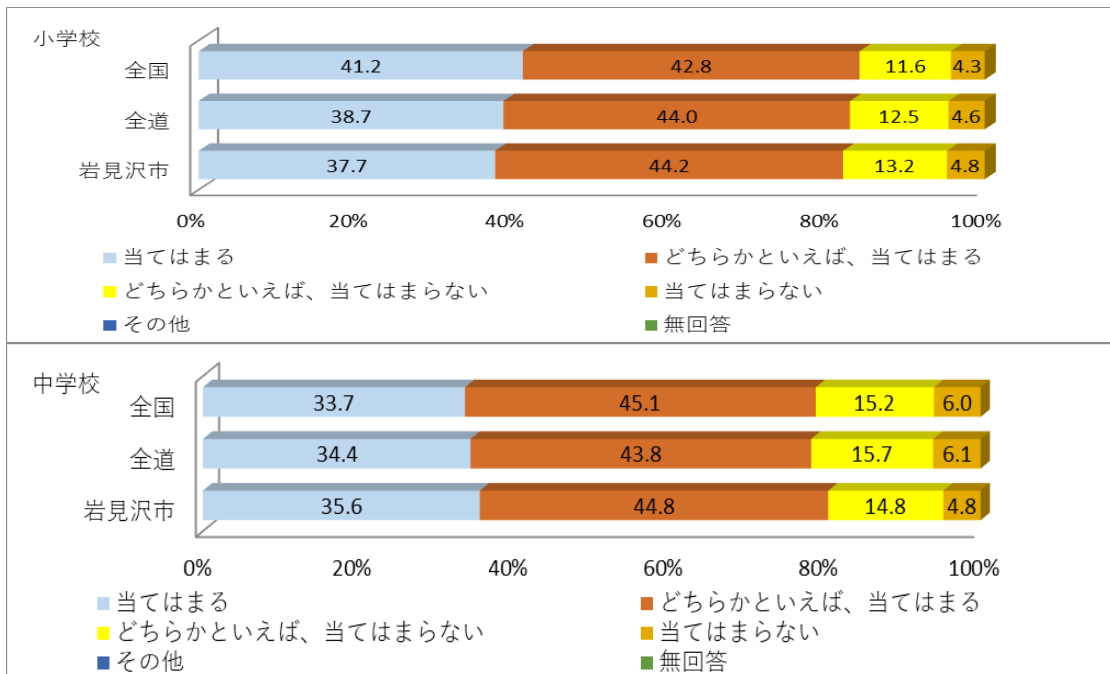
6 自分で計画を立てて勉強をしていますか。

肯定的な回答は全国と比べて、小学校は1.3ポイント上回り、中学校は1.2ポイント下回っている。



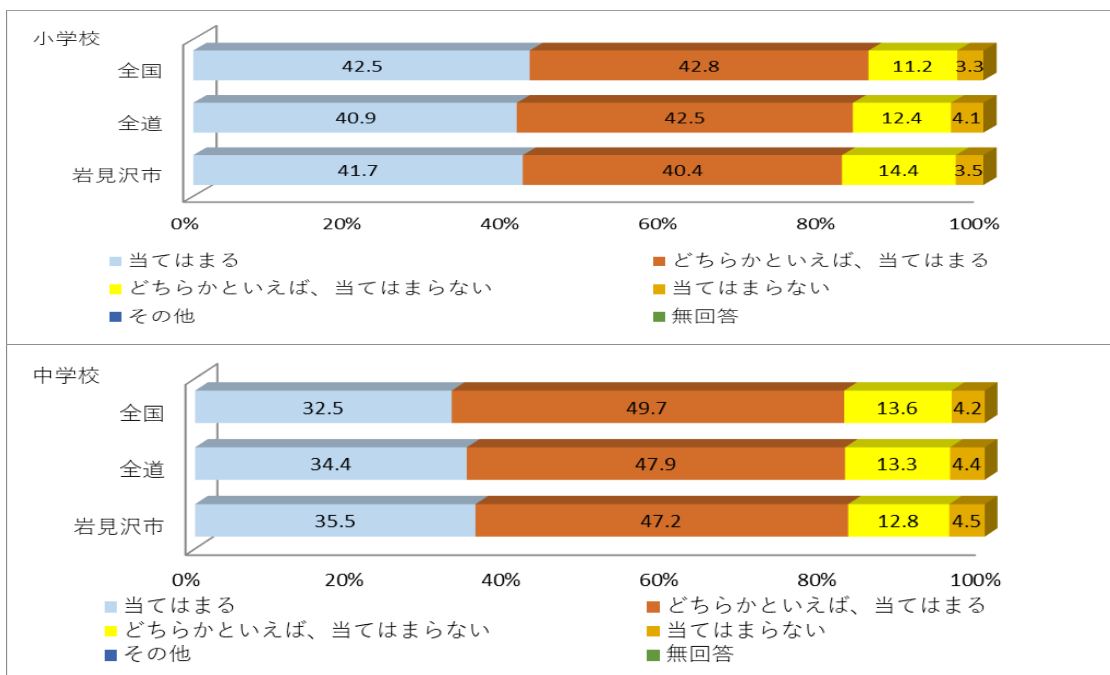
7 自分には、よいところがあると思いますか。

肯定的な回答は全国と比べて、小学校は2.1ポイント下回り、中学校は1.6ポイント上回っている。



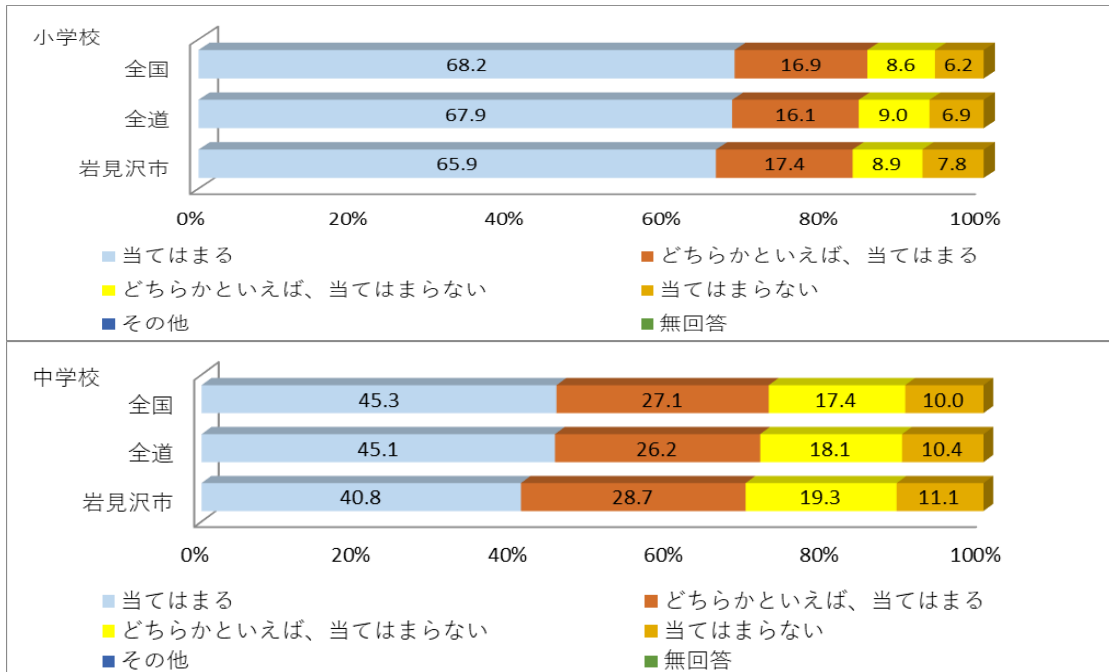
8 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

肯定的な回答は全国と比べて、小学校は3.2ポイント下回り、中学校は0.5ポイント上回っている。



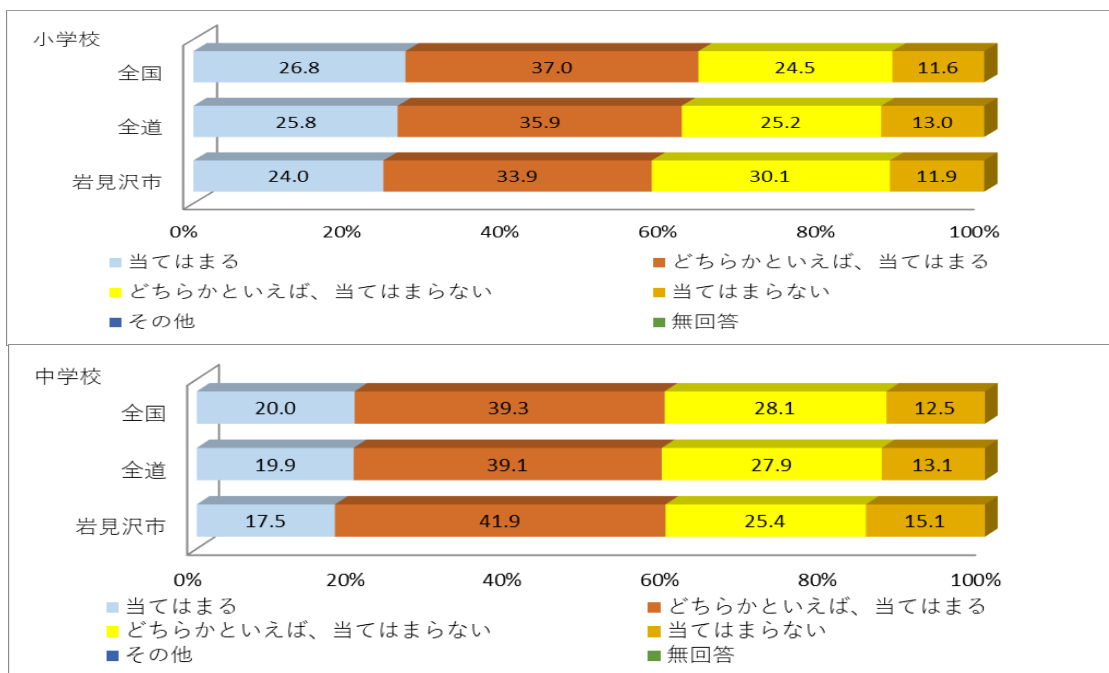
9 将来の夢や目標を持っていますか。

肯定的な回答は全国と比べて、小学校は1.7ポイント、中学校は2.9ポイント下回っている。



10 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。

肯定的な回答は全国と比べて、小学校は5.9ポイント下回り、中学校は0.1ポイント上回っている。



IV 調査結果による指導改善のポイント

1 徹底した「日常授業の改善」の取組

各学校において「日常授業の改善」を組織的な学校改善の中核として位置付け、徹底して取り組んでいくことが重要である。

- ①「教えて考えさせる」授業の学校全体での展開
 - ・教えることは教え、思考とアウトプットの活動（書く、説明する、話し合う）が明確な授業
 - ・「課題(ねらい)」とそれに正対した「まとめ」が明確な授業
 - ・「振り返り」を書くことによる自らの思考過程を客観視できる授業
- ②「ピア・サポート」による「傾聴・受容・共感」の学校風土の醸成（児童生徒はもとより教師の教育観、指導観の転換）
- ③日常授業の中で「ピア・サポート」を実践することへの意識転換
- ④学習規律、教室環境などの統一（ユニバーサルデザイン）

2 学力向上の取組の一層の推進

各学校において、検証改善サイクルによる学力向上の組織的な取組に継続して取り組んでいくことが重要である。

- ①教育課程の工夫・改善
- ②学力の数値目標の設定と評価
- ③練習問題（ドリル）の徹底による習熟の深化
- ④朝・放課後学習や長期休業中の学習等による補充・深化・発展的な学習機会の提供
- ⑤宿題・家庭学習の充実による学習習慣の定着

3 小中連携による学力向上の取組の確実な実行

小・中学校の教職員が、義務教育9年間を見通して子どもたちに学力を身に付けさせるために連携強化を図ることが重要である。

- ①標準学力検査、全国学力・学習状況調査の結果の交流
- ②小学校卒業時と中学校入学後の成績の比較検討
- ③小・中学校で統一した学力向上の取組の実施

4 子どもの自尊感情・自己有用感・達成感・規範意識等を育てる取組の推進

学校生活において自己有用感や規範意識を高める取組を推進し、子どもたちの「学びに向かう力」を高めることが重要である。

- ①規範意識が高い児童生徒ほど自尊感情が高いという研究結果を踏まえた、教職員の共通理解に基づく学校のきまりを守る指導の継続

- ②授業や行事等の教育活動で、児童生徒に自信をもたせたり、達成感を味わわせたり、自分のよさに気付かせたりする活動の意図的な推進
- ③子どもが自己を見つめ、生き方についての考えを深める「特別の教科道徳」の授業づくりの深化・充実
- ④生徒指導の機能を生かした「わかる」授業づくりの継続
- ⑤「hyper-QU よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート」を活用した実態把握、ピア・サポートによる支持的風土の醸成

5 子どもたちの基本的な生活習慣の定着

学校、家庭、地域が一体となり、子どもたちの基本的な生活習慣を定着させることは、「学力向上」において欠かすことができないことから、引き続き「家庭での5つの約束」の徹底を図る。

〈家庭での5つの約束〉

- ア 早寝、早起き、朝ごはんの習慣を身につけよう
- イ 次の日の学習準備をしよう
- ウ 家庭学習を毎日しよう
 - ・帰宅後の学習習慣を身に付ける
 - ・宿題、予習、復習をする
- エ 読書に親しもう
- オ 家族との会話を大切にしよう

6 「家庭力」「地域力」の更なる向上

平日における学習時間が短い子ども、夜遅くまで起きている子ども、ゲームをする時間やスマートフォンの使用時間が長い子どもの増加、家族と話す時間の減少等、生活習慣に関する課題への対策が必要である。

- ①家庭における、子どもが社会性や自律性を身に付け、自らの生活リズムを整えようとする態度の育成
- ②地域子ども会、地域行事、関係機関、PTA 等との連携・協働により、子どもたちの地域や社会への関心を高める地域ぐるみの子育て推進体制の構築と推進とともに、その取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。